

[1]

問一	㊶ 一躍			㊷ 阻害			㊸ 危惧			㊹ 縦横			㊺ 丹念		
	の	美	数	か	情	の		出	あ		創	緒		揮	お
問二	で	し	学	ら	を	中		し	る		造	を	発	す	り
	あ	い	も	。	生	心		、	情		性	を	揮	る	、
問三	<p>数学者である私にとって、数学が人類にどうい利益をもたらすかは、あずかり知らぬことであり、欧米人が数学と呼んでいる一つの形式に沿うように、知性の文字板に自らの情緒を書き続けるだけでよいということ。</p>														
問四	<p>日本文化は、「情緒の構造」を土台としているため、この構造のあるところでは、正しく、美しい生き方が可能になるが、「情緒の構造」の破壊が進行している現代世界では、自分が何をしているのか見えなくなっているから。</p>														

[2]

問一	㊶ かんせい			㊷ へい			㊸ たび			㊹ そくばく			㊺ えりくび		
	<p>強盗をしようとしても失敗し、待ち伏せしていてもうまくいかない「私」は、オミクジか何かを売り歩いていても買ってもらえない男の話聞き、どちらも金を得ようとしても失敗している点で同じようなものだと思っただから。</p>														
問二	<p>自分と同じように窮状に陥っていると見える男に対し、「私」は同類への憐れみのような感情を抱いていたが、男が持っていた弁当を食べ始めたのを見てみると、自分が今朝から何も食べておらず、彼よりももっと苦しい立場に置かれていることを痛感させられたから。</p>														
問三	<p>稼ぎの少なかった男は、金を持たずには家に帰れないとつぶやいたのかもしれないが、「私」にとっては、それ以上に、家もなく故郷にも帰れない自身のつらい現状を示唆するものという意味合いを持つと考えられる。男が低く重く地を這うような声で「これではかえれない」とつぶやきつづけるのを聞くと、「私」は気が滅入り、体じゅうの力がぬけて、男を襲うこともできず、現状の打破もできないという状態に追い込まれている。</p>														
問四	<p>現状の打破もできないという状態に追い込まれている。</p>														

〔3〕

問一	㉑	寵愛なさる
	㉒	きつと恨みを報いましょう
	㉓	すばらしい前世からのご縁
問二	美しい容姿で優雅に振る舞う富子に満足するにつけ、かつて懸想してきた蛇である都風の真女子の存在をなんとなく意識したから。	
問三	姿かたちは富子であるが、間違いなく蛇の妖怪である真女子の声であったから。	
問四	自分を遠ざけることなく、このまま契りを交わし、夫婦となること。	
問五	源氏物語	

〔4〕

問一	㉑	もつぱら
	㉒	ともこ
問二	河南尹であった袁安は、地域一帯がズイムシによって農作物の被害を受けたにもかかわらず、土地の境界線が複雑に入り組んでいる中牟県に被害が及んでいない、という話は事実ではないと疑ったということ。	
問三	来たる所以の者は、君の政迹を察せんと欲するのみ。	
問四	雛を連れていくということを理由に、そばを通りかかった雛を捕まえようとしないう中牟県の子どもには、魯恭の徳による教化が行き渡り、仁の心があるということ。	
問五	中牟県の役人や民は、魯恭が中牟県を去った後も、仁政を行った魯恭のことを懐かしみ慕った。	